

佳作

自然世界

東京都墨田区立両国中学校二年 渡辺 暁

私は毎年秋になると、祖母の家へ遊びに行きます。そこは山に囲まれていて、麓には川が流れています。私は東京育ちですが、ここはたくさんさんの経験ができる一番の遊び場です。そこは毎年多くのことを私に教えてくれます。

去年、私が遊びに行った初日は大雨だったため、「今日は無理だね。散策は明日にしよう。」

と、祖母が言いました。しぶしぶ家の中に入った私を見て、笑顔で、

「明日になったらビックリするよ。」

と言ってきました。どうしてビックリするのかたずねようと思いました。しかし祖母がこんな顔するのは何かあるな、と感じ、明日へのお楽しみとして、一日目は終わりました。

二日目、仰天しました。水位が数メートル高くな

った川。湿気が多いからか、東京では見たことのない巨大なカタツムリ。通常一日に五匹ぐらいしか見ないカエルが庭に二十四匹も、

「あーあ、またこんなにでてきちゃって。またカエル食べにへび来ちゃうよ。」

と言って洗濯しに行きました。私はこの話を聞いたあと、あ然としました。こちら辺では湿気が多い朝は、カエルの大発生も、巨大カタツムリ出現も、カエルを食しに来るへびも、みんな普通なんです。

三時間後、軽食を食べていると、祖母がゆっくりとこちらにきて、

「足音立てずについて来て。」

と言いつつ庭まで来ると、祖母の言った通り、へびがいました。小さなへびでしたが、その口には……。私はあれを見たあと、何だか少し寒気がしました。その日は山の散策などをしましたが、ずっと頭がへびとカエルのことではしゃいでいた。私は初めて目の前で、自然摂理、弱肉強食の世界を感じました。

夜食は鮎でした。うまいうまいと食べているときに、

「あのカエルのこと、どう思ったかな。」
祖母が聞いてきました。私が、

「かわいそうだと思った。」

と言うと、祖母ははっきりと

「私らが今、鮎を食べてるのと同じだね。」

と言いました。そして、

「私らは自然から命をもらってる。それは私らは自然を破壊している。とても悲しいことだが、私は命を育てることよりもはるかに命を頂戴している方が多い。もう私はばあさんだからな。できることと言えば小さい子どもに、自然の美しさ、豊かさ、強さ、怖さを教えていくことだよ。」

私はこの話を聞いて自然とは何かを理解できそうな気持ちになりました。多分自然とは、生命の結晶なのかもしれないと思います。人間と同様で、あらゆる感情があると思います。私は結局、祖母の家を囲む自然に感動したのではなく、自然そのものに感動したのです。